

2021年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 大蔵小 学校】

1 実践テーマ	I ・ III ・ V
2 実施対象者 (学 年・人 数)	大蔵小学校 3・4年生 67名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 (O)
4 目 標 (ねらい)	・ リオパラリンピック車椅子テニス日本代表二條実穂氏の話 を聞いたり、競技用車椅子の使用体験をしたりすることによ り、東京2020大会に向けた機運醸成を図る。 ・ 車椅子を使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考 え、障害をもった方たちとの共生社会について考える。
5 取組内容	「リオパラリンピック車椅子テニス日本代表二條実穂氏 との交流を通して」 ○ 二條実穂氏の紹介 ○ 二條実穂氏による講話 ・ パラリンピックについて (20分)   ○ 競技用車いす体験会 (20分)  

	○ 二條選手とボッチャ体験（20分）  ○ 二條実穂氏への質問タイム（10分） 
6 主な成果	○ 二條実穂氏の生き様や絶対にあきらめない精神力、リオパラリンピックの様子など大変わかりやすい講話であった。 ○ トップアスリートである二條実穂氏に、東京パラリンピックの見どころについて、資料を用いながら説明していただくことで、児童は東京オリンピック・パラリンピックへの期待や意識を高めることができた。 ○ 障害をもった選手への尊敬の念を持ち、その心情の強さを感じ、人の生き方について考え、生徒自身の目標へとつなげることができた。 ○ 車いすを使う立場になって考え、障害をもった方たちと共生する豊かな社会をつくろうとする心情を養うことができた。
7実践において工夫した点 （事業の特色）	○ 二條実穂氏の強い要望から、減多に乗ることがない競技用車いすを参加児童全員に体験させることができた。 ○ そのために、北九州市立障害者スポーツセンターと連携し、競技用車いすを10台借用した。 ○ ボッチャの道具も借用し、参加児童全員が二條選手と一緒に楽しみながら競技体験することができた。 ○ 二條実穂選手が介助を必要としていることをはっきりおっしゃったので、スムーズに送迎、進行などの対応をすることができた。

8主な課題等	○ 二條実穂氏は、以前から北九州市と交流が深いため、今後も、可能な限り北九州市内の小中学校に訪問して、講演会や車いす体験学習を子どもたちと行いたいと切望されている。 ○ 現在、二條実穂氏は、全国各地において講演活動を行っている。今後とも、直接メールや電話等で講演依頼をすることができるので、推進校での活用が大いに期待される。
9来年度以降の実施予定	○ 今回の取組を機に、オリンピック・パラリンピックなど競技スポーツへの興味、関心が高まってきている。 ○ 今後も以下の重点目標を達成すべく、様々な取組を通してオリンピック・パラリンピックへの機運醸成を図っていく。 ・スポーツ及びオリ・パラの意義や歴史の理解 ・海外からの客人をもてなすボランティア精神の育成 ・インクルーシブな社会の構築 ・日本及び世界の文化・伝統の理解 ・スポーツへの興味・関心の向上